

# 「地理A」「地理的な見方・考え方を培う指導と評価の計画と工夫」

華陽フロンティア高等学校 堀 英男

## 1 指導と評価の年間計画

- (1) 導入単元の工夫
- (2) 「適切な課題を設けて行う学習」の配置
- (3) ねらいのステップアップ = 積み重ねて身に付ける力の育成

## 2 単元指導計画

- (1) 目標の明確化
- (2) 目標実現のための学習過程の考案と指導形態の工夫
- (3) 各時間毎の位置付け

## 3 学習指導案

主体性を育み、思考を導くための指導の工夫

- 生徒に課題意識を持たせる授業
- 多角的に考えさせる授業 = 思考の深化と拡大
- 多様な学習活動の展開（作業的・体験的学習活動など）

## 4 授業実践

### (1) はじめに

<ねらい>

年間計画、指導の重点の説明

生徒が興味・関心を抱いている学習分野の把握による学習計画への反映

### (2) 主題学習「世界の主要都市と名勝」

<ねらい>

- 地理学習への関心と課題意識を高める。
- 世界地図の見方・利用の仕方を習得させる。
- 絶対位置のとらえ方を理解させる。

<評価法>

プリント記入・確認

質問票記入

<反省【 = 効果のあった点 = 改善すべき点】>

地図への興味・関心の喚起

世界地図の使い方の理解

生徒が理解しやすい主要都市や名勝への変更

### (3) 「地球上での生活」(第1章第1節「球面上の世界と地域構成」の単元)

<ねらい>

地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して、球面上の世界と地域構成を理解させる。

地球表面の大陸と海洋の形状や各国の位置関係、方位、時差及び日本の位置との領域について理解させる。

<構成>

地球上での生活(発表項目)

地球規模からみた世界

世界的視野からみた日本の位置と領域

学習指導案1

<工夫した点>

地理的な考察の過程を表現することができるよう、意見発表やグループ学習の場を設定

主体的な学習を促すための、地図や資料を使った作業的学習の取り入れ

地理的な思考や分析、多角的な見方ができるような指導の工夫

学習指導案2(発表内容)

<工夫した点>

主体的な学習を促すための、地図や資料を使った作業的学習の取り入れ

地理的な思考や分析、多角的な見方ができるような指導の工夫

知識の定着を図るための補助プリントの活用

興味・関心を持ちつつ、地理的な考察ができるような、思考の順序立てを意識

した発問・資料提示と指導

< 評 価 >

プリント記入・確認

行動観察

自己評価表の記入

< 反 省 >

目標に照らした学習項目の精選と重点化

学習活動（質問事項）の焦点化

生徒の実態と教材の質との関連を考慮した時間の配分

生徒の理解のチェック

#### （４）主題学習「私の海外旅行プラン」

< 設定の理由 >

「旅行」をテーマに据えることにより、生徒の興味・関心を引き出し易い。

提示された条件の中で、ある国・ある地域や場所を多方面から考察することにより、地理的な見方・考え方を培うことができる。

様々な情報や資料の中から地理情報を抽出・活用し、表現する能力を育てることができる。

球面上の世界における位置関係や地域構成、時差・距離の算出方法などの定着を図ることができる。

< ねらい >

現代世界のある地域を、人々の営みや他地域との関係、環境条件などを踏まえて多角的に考察させる。

様々な資料から地理情報を取得し、適切に活用することにより、それらを地理的に追求する技能を身に付ける。

旅行プランをまとめて発表することにより、地理的表現力を高める。

< 評 価 >

プリント記入・確認

行動観察

作品内容評価

発表内容評価

< 反 省 >

生徒の興味・関心の喚起と主体的な活動

地理情報の取得と多角的な思考

生徒の実態を考慮した時間設定

学習内容の具体化・構造化

校内IT活用時の検索内容の制限

## 5 評 価

### （１）意義

- ・教師... 指導計画・授業の方法・資料等が適切であったかどうかといった判断
- ・生徒... 自分の学習の状況を知る。どう対応していくのかという指針  
どのような目標を持ち、どのような指導が必要か考え、適切に評価する。

指導と評価の一体化 = 目標と指導と評価の一体化

### （２）多様な評価法の工夫

発問や質問票に対する回答内容の分析

補助プリントへの記入など授業に取り組む姿勢の観察

自己評価票の分析

作品による評価

表現・表現内容の観察・分析など

これまでの授業実践の一コマには、生徒に自己評価票を記入させ、自らの授業への取組を評価させた。自分は「意欲的に取り組めたか」「考えることができたか」「理解できたか」など、生徒自らの学習の取組や理解度を自分で評価させた。これは、生徒自身が自らの学習活動に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習活動の充実や発達を促すという意味から効果があると考えた。また、教師としても、生徒が「目標に到達できたか」を知るだけでなく、「どれくらいわかったのか」、「どれくらい関心を持てたのか」などといった点から授業の反省をする材料となり、従って今後の授業を改善する手だてにもつなげることができると考えた。

また、自己評価表に、これまでの学習事項についての4観点別（関心・意欲・態度、思考・判断、技能・表現、知識・理解）の質問を加えた質問票は、それぞれの観点から生徒の学習状況を把握し、評価する手段になると考えた。

## 6 自己評価票に記載された生徒の感想の一部

- ・地球の地学的運動に関心が持てた。
- ・地球儀と地図との違いが理解できた。
- ・時差の計算が理解でき、楽しかった。
- ・時差は苦手だったけれど、授業を受けて考えたり、家でも復習したりして、少しわかってきた。もっと完璧になるように頑張って復習したい。
- ・以前は時差の仕組みとかよく分からなかったが、授業を受けてみて、時差の仕組みがわかり、うれしかった。
- ・時差の仕組みは、旅行の際にも使えるから、学習して良かったと思う。
- ・地球儀や地図を使った授業は楽しく、各国の位置関係が理解でき、楽しんで授業を受けることができた。
- ・各々の図法には様々な特徴があり、なかなか難しいことが分かった。

地理 A 指導と評価の年間計画の概要 (第2学年用)

目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
【学習指導要領】	
到達目標に向けての具体的な取り組み	・現代世界の地理的諸課題に対する関心と課題意識を持つことができるよう、身近な事例からテーマを設定する。 ・世界の諸地域の生活や文化の特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察できるように、地図や統計・画像などの地理情報を有効に活用するとともに、授業毎に思考・判断を問う内容を設定する。
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	・諸資料を地理的に分析・追求して表現する技能が身につくよう、作業的・体験的な学習を取り入れるとともに、結果を表現する場面を多く設定する。 ・現代世界の地理的諸課題についての基本的事項が理解できるように、適宜課題追求学習を取り入れる。

月	単元名	使用教科書項目(書店販売の新地理A)	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
		地理Aの授業について(はじめに)	1	・地理A学習の意味	アンケート実施
4	地図と世界	主題1 世界の主要都市と名勝	1	・世界の主要都市や名勝の位置を地図上で確認することにより、世界に関心を持ち、世界地理への視野を広げる。 ・世界地図の見方・利用法、絶対位置のとらえ方を理解する。	プリント確認 行動観察 質問票記入
月	第1章	1地球上での生活	2	・地球の形や運動を理解し、それが及ぼす影響を考察する。	プリント確認
	第1節	2地球規模からみた世界	2	・時差の仕組みを考え、球面上の世界で生活している認識を持つ。 ・球面上の世界と地域構成を、地球儀と世界地図との比較や略地図を通して理解する。	行動観察 グループ学習
5	球面上の世界と地域構成	3世界的視野からみた日本の位置と領域	1	・地球儀と世界地図を活用して日本と世界の関係を考察し、日本の位置・領域に関する特色を理解する。	
月	第2節	1情報・通信の発達により一体化する世界	2	・現代世界とその変化に対する関心を持つ。	小テスト
	結びつく現代世界	2交通の発達により交流する世界	1	・交通、通信の発達、人や物の国際間の移動などの地域性や動向を考察する。	プリント確認 行動観察
		3世界の貿易	3		
		4国家間の結合	2	・主題図や統計を通して、国家間の結合や国際貿易が活発化していることを理解する。	
6		前期中間考査	1	・2ヶ月間の学習の状況について自己評価する。	自己評価表の記入
月		テスト返却 授業評価	1	・授業評価の実施	授業評価表の記入
7	多様性を増す人間行動と世界	1経済発達と消費・余暇活動	2	・世界や日本に関する身近な情報に関心を持つ。	プリント確認
		2人間活動を知る身近な情報	2	・世界や日本に関する身近な情報を収集し、地域性と関連付けて考察する。	行動観察
月	主題2 わたしの海外旅行プラン		4	・旅行プランの計画を通して、世界の各地域に関心を持つ。 ・現代世界のある地域を、人々の営みや他地域との関係、環境条件などを踏まえて多角的に考察する。 ・様々な資料から地理情報を取得し、適切に活用する。 ・旅行プランをまとめて発表する。	作品発表 作品提出
7	身近な地域の国際化の進展	1身近にみられる国際化	1	・世界との結びつきがみられる生活圏、行動圏の中での地域調査に関心を持ち、その意義を理解する。	小テスト プリント確認 行動観察
		2国際化を課題にした身近な地域調査	1		
		3日本と世界との交流	2	・物の輸出入や人々の交流を通して、日本と世界との結びつきを理解する。	
月	主題2 野外(地域)調査		4	・地域調査が、地理学習にとって不可欠であることを理解する。 ・地域調査の方法を習得する。 ・地形図の正しい利用法を理解する。 ・地域調査から、身近な地域の国際化の進展を理解する。 ・地域調査の結果を考察し、発表する。	グループ別学習 作品発表 作品提出
9	第2章	1人ひとりをとりまく地形	2	・世界の諸地域の生活様式や文化に関心を持つ。	プリント確認
月	第1節	2人ひとりをとりまく気候	2	・世界の地形や気候の違いとその特徴を、農業、生活などとの関わり合いで考察する。	行動観察
	生活・文化と環境	3世界の民族と文化	2		
		前期末考査	1	・世界諸地域の生活や文化を、自然環境要素や地域性、民族性と関連付けて、多面的に考察する。	自己評価表の記入
10		テスト返却 プリント確認	1	・異文化を適切に理解することの意義を学ぶ。	
		4アメリカの生活・文化と環境	2	・これまでの学習の状況について自己評価する。	小テスト
		5アジア・オセアニアの生活・文化と環境	2		
		6EUの生活・文化と環境	2		
		7オーストラリアの生活・文化と環境	2		
11	第2節	1近隣諸国の学習	2	・東アジアや東南アジア、ロシアの生活様式や生産活動に関心を持つ。	プリント確認
月	近隣諸国の生活・文化と日本	2韓国の生活・文化と日本	2	・近隣諸国の生活や文化を理解する。	行動観察
		3中国の生活・文化と日本	2	・近隣諸国の生活や文化の特色を、日本との共通性や異質性に着目して考察する。	
		4ロシアの生活・文化と日本	2	・近隣諸国の生活や文化の特色を、日本との共通性や異質性に着目して考察する。	
12		後期中間考査	1	・近隣諸国の人々と共に生きていくことの意義を学ぶ。	自己評価表の記入
月	第3節	1地球的課題の出現と地域性	2	・現代世界が抱えている地球的な様々な問題に関心を持つ。	プリント確認
1	諸地域からみた地球的課題	2人口問題	2	・環境・資源・エネルギー・人口・食料及び居住や都市問題を、地域の環境条件と関連付けて考察する。	行動観察
月		3居住・都市問題	2	・地球的課題は国によって特色ある現れ方をしていることを理解する。	小テスト
		4食糧問題	2		
		5資源・エネルギー問題	2	・地球的課題の解決には、国際協力が必要であることを理解する。	
		6環境問題	2		
		7相互に関連する地球的課題	2		
2・3		主題3 地球的課題の解決にあたって	2	・地球的課題の解決にあたって今後取り組むべき問題や自己の立場をまとめ、発表する。	レポート提出 レポート発表
月		地理Aの授業を終えて 授業評価	2	・1年間の学習により何が学べたかについて総括する。 ・地理学習の意味は何であったかについて総括する。	年間の反省 授業評価表の記入
		後期末考査	1		

合計時間数 70

第1章の第3節と第4節はそのどちらかを選択して実施する。

## 「単元の指導と評価の計画」(単元指導計画)

### 第1節 <球面上の世界と地域構成>

#### 単元の目標

地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して、地球表面の大陸と海洋の形状や各国の位置関係、方位、時差及び日本の位置と領域について理解させる。

#### 単元ごとの評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
球面上の世界と地域構成に対する関心と課題意識を高め、それらを地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して追求する学習に意欲的に取り組み、地球儀や地図の活用に関する技能を身に付けようとしている。	球面上の世界と地域構成に関する課題を設定し、それらを地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通して多面的・多角的に追求するとともに、地球儀や地図を活用して球面上の世界と地域構成をとらえる方法を考察している。	球面上の世界と地域構成に関する資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択、活用することを通して、それらを地理的に追求する技能を身に付けるとともに、そうした追求、考察の過程や結果をまとめたり、説明したりしている。	地球儀と世界地図との比較、略地図の描図などを通してとらえた球面上の世界と地域構成を理解するとともに、地球儀や地図を活用してそれらをとらえる方法を理解し、それらの知識を身に付けている。

#### 各授業時間ごとの主な内容

1 地球上での生活			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法
第1時間目	地球の形状と大きさ	地球儀上から、地球の形状や大きさを理解する。 【関】【知】	意見発表  プリント提出 意見発表 サマータイム制の主な実施国を着色し、意見発表させる。 プリント提出
	地球の自転と公転 サマータイム制	赤道・子午線の意味を理解する。 地球の自転・公転の意味を理解し、それらが及ぼす影響を考察する。 サマータイム制の意義を理解し、実施国の地理的特徴を考察する。 【思】【技】	
第2時間目	世界時と標準時	世界時と標準時の意味を理解し、各国の位置関係や面積を考察する。 【思】【知】	白地図に日付変更線を描く。 各国の経度や国際線の航空機の飛行時刻表から時差の算出方法を理解させる。 プリント提出
	日付変更線	日付変更線の場所と意味を理解する。 【思】【知】	
	時差	地球の自転から、時差が生じることを理解し、時差の算出方法を習得する。 【思】	

2 地球規模からみた世界			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法
第3時間目	地球規模でみる方位・距離・位置	地球儀を使用して、ある国や都市の方位・距離・位置・面積関係を理解する。 【知】	グループ別学習 地球儀を使用して測量方法を理解させる。  プリント提出
	地球と世界地図	図法の異なる世界地図の特徴と用途を理解する。 地球儀と様々な図法の世界地図を通して、世界の地域構成を多角的に理解する。 【知】【思】【知】	
第4時間目	略地図	略地図の描図を通して、世界の地域構成をとらえる。 【技】【思】	プリント上に略地図を描かせる。  プリント提出
	世界各国の位置関係	地球儀や世界地図を通して、球面上の世界と地域構成を理解する。 【技】【思】	

3 世界的視野からみた日本の位置と領域			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法
第5時間目	日本の位置と領域	地球儀や世界地図を通して、日本の位置と領域を理解するとともに、領域の意味を考察する。 【思】【知】	意見発表 行動観察  歴史的な背景からとらえさせる。
	北方領土問題	北方領土の存在を理解するとともに、位置関係や現状を歴史的な経緯から考察する。 【思】【知】	

# 学 習 指 導 案

工夫している点

- ・単なる知識の詰め込みではなく、地理的な見方や考え方ができるよう、地図や資料を使った作業的学習を取り入れている。
- ・生徒の興味・関心を引き出し、理解がしやすいように、地球儀と地図を比較して説明している。
- ・「分かった」、「おもしろい」といった実感がもてるよう、補助プリントを活用しながら、思考の順序立てを意識して、懇切丁寧な指導に心掛けている。
- ・復習が容易で、知識の定着を図るのに効果的な補助プリントの工夫に努めている。

指導日時	平成15年6月23日(月)第3限	指導クラス	2年D組(男子25名、女子14名)	指導者	堀 英 男
教科(科目)	地理歴史(地理A)	単元名	球面上の世界と地域構成 本時(2時間目/5時)		
教科書	現代世界のすがた 地理A(二宮書店)	副教材	高等地図帳最新版(二宮書店) 補助プリント		
本時主題	地球上での生活				
本時の目標	地球の自転から球面上の世界における時間の移り変わりに関心を持ち、球面上の世界で生活している認識を持つ。 地球儀や世界地図を活用して各国の標準時や時差について理解するとともに、世界時(本初子午線)や日付変更線の必要性について考察する。 時間の移動についての認識を深めることにより、球面上における各国の位置関係や面積を理解する。 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【知識・理解】				
課程	学習項目(指導のねらい)	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
展 開	導入 ・地球の自転から、時差について気付かせる。	地球の自転と時間の移動の理解 <b>Q1) 時間はどちらの方が進んでいるだろうか?</b> ・時間は東から西へ移動していることを理解する。		電球を太陽と見立て、地球儀を回しながら興味・関心を引き出しつつ説明する。 【関】 〈評価方法〉 発問・挙手・発表	
	10分 ・時差について理解させる。	時差の算出方法の理解 <b>Q2) 1日で地球が1回転することは1時間あたりどれだけ動くことになるか?</b> ・経度が15°違うと1時間のずれが生じることを理解する。		地球1日1回転360°より算出させる。 【思】 〈評価方法〉 プリント記入・事後提出で確認 発問・挙手・発表	
	20分 ・世界時とその必要性について理解させる。	世界時の理解 <b>Q3) 世界時はどのようにして定められたか?</b> ・18世紀の産業革命による交通機関の発達により、人々の移動が活発になった結果、時間の標準化が必要になったことを理解する。 ・世界時はイギリスのグリニッジを基準としていることを理解する。 経度0°(本初子午線)を白地図上でなぞる。 ・世界時の基準は、その当時イギリスが世界の海を制覇していたことからくる歴史的経緯を説明する。		世界時の必要性を考えさせる。 地図帳を使用して経度0°(本初子午線)の位置を確認させる。 経度0°(本初子午線)上にあるイギリスの都市を確認させる。 なぜイギリスが世界時の基準になったのかを考えさせる。 【思】 〈評価方法〉 プリント記入・事後提出で確認	
	30分 ・各国の標準時について、面積との関係で理解させる。	各国の標準時の理解 ・日本が兵庫県の明石市を基準としていることを理解する。 <b>Q4) ロシアやアメリカでは、なぜ標準時がいくつもあ るのか?</b> ・ロシアやアメリカの東西への面積の広さを理解する。		地図帳で兵庫県明石市と経135°を重ね合わせながら確認させる。 地図帳を使用し、日本と比較させながら面積の広さを確認させる。 【思】 〈評価方法〉 プリント記入・事後提出で確認 発問・挙手・発表	
	30分 ・日付変更線とその意味について理解させる。	日付変更線の理解 <b>Q5) 日付変更線はどのように設定されているか?</b> 白地図上に日付変更線を入れる。 ・日付変更線が世界時の裏側に陸地を避けて設定してあることを理解する。 ・日付変更線と日時との関係を理解する。		地図帳を見ながら日付変更線を記入させる。 日付変更線が曲折している理由を考えさせる。 【思】 〈評価方法〉 プリント記入・事後提出で確認 発問・挙手・発表	
	45分 ・時差の算出方法を理解させる。	時差の算出問題の実施 <b>Q6) 時差を計算してみよう。</b> ・ロンドンを基準にして、各国の首都の時差を算出する。 ・国際線の航空機の飛行時刻表から、時差についての問題を解く。		地図帳にて各国の首都の経度を計測しながら算出させる。 プリント使用 【思】 〈評価方法〉 行動観察・机間指導 プリント記入・事後提出で確認	
まとめ 50分 ・本時のまとめをする。	・地球の自転からくる時差、世界時、標準時などと各国の位置関係のまとめをする。 ・次時の予告をする。		本時の学習内容の確認と次時の予告をする。 【知】 〈評価方法〉 発問・挙手・発表		

# 学 習 指 導 案

工夫している点

- ・ 諸資料を地理的に分析し、表現ができるよう、意見発表の場やグループ学習の場を設けている。
- ・ 地理的な見方や考え方ができるよう、地図や資料を使った作業的学習を取り入れている。
- ・ 生徒の興味・関心を引き出しつつ、多角的な見方ができるよう、地球儀と地図を併用している。
- ・ 「分かった」、「おもしろい」といった実感がもてるよう、補助プリントを活用しながら、思考の順序立てを意識して、懇切丁寧な指導に心掛けている。

指導日時	平成15年6月18日(水)第4限	指導クラス	2年D組(男子25名、女子14名)	指導者	堀 英 男
教科(科目)	地理歴史(地理A)	単元名	球面上の世界と地域構成 本時(1時間目/5時)		
教科書	現代世界のすがた 地理A (二宮書店)	副教材	高等地図帳最新版(二宮書店) 補助プリント		
本時主題	地球上での生活				
本時の目標	地球の形状や大きさ、運動を理解することにより、球面上の世界で生活している認識を持つ。 【関心・意欲・態度】 地球の公転が気候に及ぼす影響を考察し、発表する。 【思考・判断】 サマータイムの意味や実施国をとらえることにより、球面上における各国の位置関係や面積を理解する。また、日本ではなぜサマータイムが行われていないかを、アジアとの気候との関係で推察する。 【思考・判断】【技能・表現】				
課程	学習項目(指導のねらい)	学 習 活 動		指導上の留意点・観点別評価	
導 入	・ 地球の形状を理解させる。	地球の形 <b>Q1) 地球の形はどのようなだろうか?</b> ・ 地球儀より実際の地球の形状を理解する。		プリント使用 地球儀を使用し、興味・関心を持たせる。 【関】 <評価方法> 発問・挙手・発表	
	・ 地球の大きさを理解させる。	地球の大きさ <b>Q2) 地球の大きさはどれくらいだろうか?</b> ・ 地球儀より実際の地球の大きさを理解する。 地球儀の縮尺率より実際の地球の大きさを算出する。 ・ 世界最高峰エベレスト山との比較でその大きさを理解する。		プリントに記入し発表させる。 【思】 <評価方法> 行動観察・机間指導 プリント記入・事後提出で確認	
展 示	10分 ・ 赤道・緯線の意味を理解させる。	赤道・緯線の理解 <b>Q3) 赤道・緯線とは何か?</b> ・ 北極と南極から等距離にある大円が赤道であることを理解する。 ・ 赤道と平行する線が緯線であることを理解する。 ・ 低・中・高緯度について説明する。		地図帳を見て、赤道が通っている場所を確認させる。 北緯・南緯それぞれが90°までであることを、地図帳より確認させる。	
	20分 ・ 経線(子午線)の意味を理解させる。	経線(子午線)の理解 <b>Q4) 経線(子午線)とは何か?</b> ・ 北極と南極を結ぶ縦の線が経線であることを理解する。			
開	30分 ・ 地球の公転・自転の意味を理解させる。	地球の運動 <b>Q5) 地球の運動はどのような影響があるのか?</b> ・ 公転面と地球の自転軸は、23.3度傾いていることを理解する。 ・ 地軸の傾きが地球上の気候に影響を与えていることを理解する。		地球儀を使用して説明する。 プリントに自分の考えを記入させ、意見発表させる。 地球の公転と気候との関係に気付かせる。 【技】 <評価方法> プリント記入・事後提出で確認 発問・挙手・発表	
	45分 ・ サマータイムの意味を理解させる。	サマータイム制の理解 <b>Q6) サマータイム制とは何か? またそのメリットは?</b> ・ サマータイム制とは何か。 ・ サマータイム制のメリットを実施国を地図上で確認しながら思考する。 サマータイムを実施している国を着色する。 ・ 標準時を1時間早めるサマータイム制は、高緯度の国々にとって昼間の時間を有効に活用できる制度であることを理解する。 ・ 日本ではなぜ行われていないのかを推察する。 ・ 東アジアの気候の特色と結びつける。		プリント使用 グループで意見交換し、発表する。 地球の公転と日照との関係を理解させる。 【思】 <評価方法> プリント記入・事後提出で確認 発問・挙手・発表	
まとめ	50分	・ 地球の公転・自転が及ぼす影響をまとめる。 ・ 次時の予告。地球の自転より時間移動についての提起。		<評価方法> 発問・挙手・発表 【思】	